震災関連記事のみの抜粋です

中外雑記

臨黄

神戸で一周忌法要

●**黄檗宗** ▽黄檗宗青年僧の会(浅野英俊会長)は十八日午後七時半から、神戸市北区有馬町の温泉寺(大野重顕住職)の本堂で「阪神・淡路大震災」の一周忌法要“希望の灯火”を厳修する。震災犠牲者の追悼と被災地の復興祈願のため大般若転読を営むもので、「元気有馬推進委員会」が共催。なお、温泉寺も兵庫県南部地震の被災寺院の一つ。

真言

神保宿老が被災地で遷化

●**高野山** 宿老・大僧正の神保耕道法心寺住職(兵庫県西宮市高木西町)が旧臘二十日、九十一歳で遷化した。同寺は昨年一月の兵庫県南部地震で本堂が全壊、庫裡の天井も落ちて、神保住職の横で寝ていた夫人・とし子さんが亡くなるという惨事が起こった。「そのことについて父は何も言いませんでしたが、相当ショックだったに違いありません」と道禅副住職は振り返る。震災後から市内の病院に入院、被災地もようやく落ち着いてきた十月末に退院して自坊に戻ってきた。亡くなる三日前に体調を崩して再入院、「あまり苦しむことがない」安らかな最期だった。同寺の周辺は震災後の区画整理が未だに終わらないため、プレハブの仮設本堂が続いている。稲葉義猛管長が導師、飛鷹全隆高野山三宝院住職が脇導師をつとめた二十三日の葬儀は、仮設本堂の横に大きなテントを張って営まれ、六百人近くが参列。その多くが被災した檀信徒だった

浄土

全浄青が一周忌追悼行脚

▽全国浄土宗青年会(神田眞晃会長)では、兵庫県南部地震で亡くなった犠牲者の一周忌にあたり、回向・追悼のための念仏行脚を実施する。十四日午後一時に総本山知恩院を出発、十七日までの四日間で約八二キロを行脚し、被災地の神戸に向かう。十七日には震災後救援基地となった尼崎市の常楽寺で午後五時半から一周忌法要を執り行ったあと、神戸に向かい、午後三時から伊藤省三住職が犠牲となった東灘区の西福寺で一周忌法要を営むことにしている。